



福祉のまち推進事業は、「住み慣れた家で安心して、ずっと暮らしたい」というみんなの願いをみんなで支える事業です。

近年の社会環境、世帯状況の変化に伴い、地域における人間関係の希薄化が進み、コロナ禍においてさらに社会的孤立が大きな問題となっています。今まで以上に身近な地域での、見守りや支え合い活動が必要になってきています。

そのため、各連合町内会単位に設置されている地区福祉のまち推進センター（以下「地区福まち」）では、住民同士の支え合い活動を広げていくために、さまざまな取り組みを行っています。

曙地区 「健康づくり教室」のご紹介

曙地区では福まちによる「健康づくり教室」が毎年4回開催されています。健康づくり教室は昭和63年から現在に至るまで続く伝統のある事業です。コロナ禍で家に閉じこもることが増え、1人暮らしの方が地域から孤立してしまうことを案じて、少しでも顔を合わせる機会を持つため教室を継続しています。事前申し込みによる人数制限や感染予防対策を行いながら、約30名の方が参加されています。

取材させていただいた日は芸能ボランティア団体「笑和会」の皆さまによる南京玉すだれ、皿回し、バルーンアート作成体験が行われていました。福祉推進員を中心

に1時間前から準備をし、コロナ感染対策は万全です。

大きな声は出せませんでした。皿回し、南京玉すだれのステージに皆さん大興奮の様子で、コロナ禍であることを忘れるほど楽しんでいました。

バルーンアート作成体験は「トイプードル」に挑戦。作成中は「難しい」との声がありましたが、完成すると「かわいい!自宅に持って帰って飾ります」と皆さん大満足の様子でした。終了後も、参加者同士で演芸の感想を話し合ったり、バルーンアートの作り方を教え合ったりなど、交流していました。



▲迫力ある南京玉すだれ



▲難しい!バルーンアート作成体験中